

工場シャッター

ネットで開閉を監視

小松電機産業 携帯に警報送信

工場用シートシャッター製造の小松電機産業(松江市、小松昭夫社長)は、シャッター開閉やそれに伴う温度変化の情報をネットで監視・分析できる機種を開発した。情報を基に搬入時間などを見直せば、省エネルギー効果や食品衛生管理の強化が見込めるといふ。

高速シートシャッター

「エクセレント門番」の改良型に、開閉情報や室内外の温度情報を記憶・送信する機能を加えた。これらの情報を同社が集中管理し、専用サイトで個々の工場管理者に提供

する。工場管理者は識別IDとパスワードを入力してアクセスし、自社工場のシャッター開閉や室内外温度の現状を監視する。海外など遠隔地の工場も含めて一元管理が可能。

グラフや一覧表で過去の記録が閲覧でき、温度変化の大きい時間帯で搬入を減らすなどの判断材料となる。

管理記録の一覧は、取引先小売店などに衛生管理状況を示す材料にもなる。「iモード」でも接続可能で、極端な温度変化があれば工場管理者の携帯電話に警報が届く。幅三辺、高さ三辺のシャッターで本体価格が約六十万円。ネットサービスは設置台数などにより別途見積もる。初年度販売目標は六千台。

業他社にネット管理システム今後、複数の企業のシャッターを導入している工場でもネット管理に早期に移行できるような仕組みを整理、新規需要を広げたいとしている。